

## 平成25年度第1回鳥取市政懇話会

日 時 平成25年8月19日(月)午後1時30分～3時30分

場 所 鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室

出席者 【市政懇話会委員(11名)】

清水昭允会長、安養寺幸男委員、今川登委員、下石義忠委員、川上一郎委員、  
神部みゆき委員、谷口博繁委員、塚田武志委員、中西重康委員、西山徳枝委員、  
吉村あけみ委員

【鳥取市】

竹内功市長、深沢義彦副市長、羽場恭一総務部長、亀屋庁舎整備局長、  
武田行雄企画推進部長、大田斉之経済観光部長、山根健介農林水産部長、大島  
英司都市整備部長

(関連事業各課)

企画調整課長、中山間地域振興課長、文化芸術推進課長、企業立地支援課長、  
鳥取砂丘・ジオパーク推進課長、生産流通振興室長、都市企画課長、都市緑化  
推進室長

司会(武田企画推進部長;以下司会) 皆さん、こんにちは。1時半となりましたので、ただいまから平成25年度第1回鳥取市政懇話会を開会いたします。

開会に当たりまして、竹内鳥取市長からごあいさつ申し上げます。

竹内市長 鳥取市の市政懇話会の今年度第1回の開催でございますが、大変お忙しい中、また猛暑の中でもございますが、こうして御出席をいただきました。大変ありがとうございます。

ちょうど今の時期、しゃんしゃん祭の時期が終了して、猛暑の中をかなり多くの方が踊ったり、また観客として御参加をいただいたりして、おかげさまで事故もなく安全にこれを終えることができた。多くの皆さんのおかげだと感謝をしているところでもあります。一方、鳥取市政においては、数々の課題がございます。そうした課題の中で、きょうの市政懇話会では、「高速道路ネットワーク」を活かした地域活性化についてという大きな柱のもとで、幾つかの具体的な論点を資料などで御説明、御紹介をしながら、これからさらにそれを伸ばしていこうと。

この高速道路ネットワークについては、鳥取自動車道がこの3月に全線開通をいたしました。そして平成25年度、今年度末には山陰道の鳥取インターから（仮称）鳥取空港インターというところまでの開通が予定されており、さらに駟馳山バイパスと呼ばれております鳥取豊岡宮津の東に行く方向の自動車道の福部インターから岩美町内のインターまでこの駟馳山バイパス、峠をトンネルで越える道路が整備をされるということで、東西にさらに高速道路ネットワークが広がっていくという状況を迎えております。産業に、観光に、あるいは人や物の交流に大きな役割を果たしていくものと思いますが、単に道路ができれば地域はよくなるというものではないので、どういう観点からどういう取り組みを展開してそれを生かしていくか、地域の発展につなげるか、これが課題となるところであります。

それとこれは特に今回のメインのテーマにいたしておりませんが、市庁舎整備について6月末の段階で基本方針案というものを取りまとめておりまして、その資料として、参考資料の分野ですが、お配りをしております。基本方針案に基づきまして、7月13、14の両日、市内5カ所で説明会も行っておりまして、賛否両論といいますが、要するに耐震改修か新築移転かみたいな二元論での議論もかなりございましたし、この庁舎整備については依然としていろんなさまざまな意見が市民の中にございます。

鳥取市としましては、住民投票が今年の5月に行われて、その住民投票の結果については選ばれた第2号案という方の内容のとおりは実現できないという議会での検討結果が出て、それで改めて鳥取市として専門家委員会を設置して検討を続けてきたわけです。市民アンケートなどもその間に行われましたが、鳥取市としては庁舎にどんな機能が必要かと。これまで住民投票で余り指摘されていなかったそうした機能の面、そういった面をより重視する形で専門家委員会の議論がなされていますので、そういった観点から基本方針案を取りまとめておるわけで、従来の二元論から一歩進んでどういう機能をどういうふうに整備していくのか、これを中心に取りまとめをしてきたところであります。

もう一つは、住民投票の段階では整備に係るイニシャルのコスト、すなわち当初の建設費、これだけ取り上げていましたけれども、専門家委員会では、いや、当初の費用だけではだめなのだと、その後の維持修繕費とかそういうものを含めたライフサイクルコストといった考え方が重要だといった考え方も出てきておりますので、そういう考え方も踏まえて全体構想的にはどうあるべきか、すなわち機能の充実と費用の抑制と、これをマッチさせるといいますか、両方かなえられるような全体構想の取りまとめを目指しております。

そうした中で特に防災機能の充実強化、これはまだまだ日本は地震列島で防災機能、鳥

取市はもう十分ではないと、みずから残念ながらそういう状況でありますので、防災機能を庁舎の面でもそのほかの例えば学校などの耐震化の面でも進めていくべきだということを考えておりますし、それから市民サービスが十分に提供できる体制でないと、そういったことも我々問題点を痛感しておりますので、そうしたことについて力を入れていきたいと。そうしたことのためには防災機能とか市民サービスの窓口機能、これを集約したような新しい施設を市立病院跡地に整備すべきだといった考え方を一つの大きな、3つの原則のうちの一つの原則に取り上げておまして、これを中心に現在検討を進めております。いずれこの秋には全体構想も明らかにしたいと考えて準備を進めております。間もなく8月27日から議会が、通常9月議会なのですが、8月の下旬から始まる次の定例会がありますので、議会での議論も十分に行いながら、取りまとめを急いでいきたいと考えております。

鳥取市の将来を考えて発展する鳥取市をどうつくっていくのか、まちづくりの観点から、財政の観点からそういったことしっかり考えて次の世代に負担を先送りしない考え方を重視しながら取りまとめをしたいと思っておりますので、この点についてはまた改めて全体構想がある程度まとまってきた段階で市政懇話会の皆様にも説明を申し上げて、また御議論をいただけたらと思っておりますので、庁舎整備については現状を少し御説明するということで、きょうはごあいさつの中で触れさせていただきました。

それでは、会長さんにバトンタッチをさせていただきまして、きょうの議題、そして議事を進めていただきたいと思います。御参加いただきました皆さん、本当にありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

**司会** それでは続きまして、本市政懇話会の会長であります清水商工会議所会頭様、ごあいさつをお願いいたします。

**清水会長** 皆さん、こんにちは。先日のお盆の特にしゃんしゃん祭、本当に100連からの方が参加して熱気むんむんですごくにぎやかだったなと思います。ずっと見させていたideていましたが、子供さんから年寄りまで本当に多くの方が、それでまたにぎやかに、それからまた無事に済んだと、よそはいろいろトラブったりしていますが、鳥取の場合、無事に済んだというのが本当にありがたいことだったなと思います。また、花火の方も好天にめぐまれて無事に済んだということはありがたいことだなと思っております。

やはり今言われたように、鳥取周辺は結構インフラ整備が進んでおります。この夏になってから岩美の浦富の方に行くと今、駟馳山のバイパスがだんだん姿をあらわしてきてお

ります。来年になったらこれが通れるのだよと、もっと豊岡などにも短くなるでと話しながら行っておりました。要は周辺がいろいろと今、鳥取市の場合、動いております。鳥取道の効果というのがすごくいろいろな面でお出ているのではないかなという感じがしております。

きょうの市政懇話会のテーマを市の方から見させていただきますと1番から7番までいろいろ多岐にわたっております。これを時間内にそれぞれの得意分野で皆さん方は持っておられますので、いろんな意見を出していただきながら、やはり問題とか課題、そういう市民の代表の方の皆さんの意見をきょうは存分に言い出させていただきますよう、時間は余り長くありませんが、効果的にやってまいりたいと思いますので、御協力のほどよろしくお祈いします。どうもありがとうございました。

**司会** ありがとうございます。

それでは、早速議事に入ります。

当鳥取市政懇話会条例の規定によりまして、会議は会長が委員長を務めるということになっております。これ以降の議事の進行は、清水会長様にお願いしたいと思ひます。よろしくお祈いします。

**清水会長** それでは、皆さんの方には資料は事前に配られておったと思ひますが、1番から高速道路ネットワーク、それから最後の定住促進の取り組みまで7項目あります。

初めに、市の方からやはり1項目ずついろいろな説明を受けて、その後、皆さんの御意見等いただきたいと思ひますので、よろしくお祈いします。

では、1番の高速道路ネットワークの方に入りたいと思ひます。市の方からよろしくお祈いします。

**国森都市企画課長** 失礼します。都市企画課長してあります国森と申します。それでは、高速道路ネットワークを活かした地域の活性化についてというテーマについて御説明をさせていただきますたいと思ひます。

初めに、大きな項目は先ほど市長が触れましたので、私の方からはかいつまんで話をさせていただきますたいと思ひます。

まず、鳥取自動車全線開通ということでございます。国土交通省の調査によりまして平日、休日とも全線開通したために対前年に比べますと1,000台以上アップしているということでございますし、それから大原あたりの373号線を通過する自動車につきましてもおおむね6割程度は鳥取自動車道を活用しているということ、平日で6割、休日で8

割程度が自動車道の方に乗りかえていっているということでございます。

ゴールデンウィークにつきましても国土交通省の方が調査をしております、それにつきましては2,500台前後の車が対前年に比べますとふえているという非常に高い効果があられているということでございます。

私どもの方としましてここに書いておりますとおりスタンプラリーとかそういったものを実施しまして、この道を活用した取り組みを進めてきたところでございます。

中段の山陰自動車道、山陰近畿自動車道につきましては、先ほど市長が申し上げましたとおりでございます、25年度供用開始区間がそれぞれ定まっているということでございますし、山陰道の関係につきまして、吉岡インターチェンジから青谷インターチェンジ、これは平成29年度内に完成する、供用する見込みだということでございます。

3つ目の丸でございますが、高速道路ネットワークを活かしたまちづくり勉強会ということで、これも本市政懇話会の会長さんであります清水会長さんにもメンバーに入らせていただきまして、国交省でありますとか鳥取県、大学、経済界の方、9名の皆さんで将来鳥取市並びに鳥取県の東部圏域のまちづくり将来像を考えていただいているところでございまして、経済でありますとか物流、観光、それから防災、医療、そういった視点でまちの今後のあり方、それに伴いまして高速道路の必要性、そういったものを勉強する会を立ち上げておるところでございます。

今後の方針等ということで書いておりますけれども、鳥取道整備・沿線振興協議会ということで、鳥取自動車道が開通したということございまして、組織を改めました。今度整備促進もさることながら沿線の振興という視点で目を向けて協議会を立ち上げておるところでございます。特に4車線化ということで後に図面つけておりますけれども、用瀬付近で追い越し車線がありますけれども、それ以外は追い越し車線がないということがありまして、沿線振興協議会の活動を通じて4車線化の早期の供用開始について、要望活動を進めておるところでございます。

鳥取自動車道、東側の山陰近畿自動車道、西側の山陰自動車道、3つの高速道路が整備されつつあり、これらを結ぶ高速道路がないということございましたので、先ほどの勉強会を通じて必要性を検討していくという取り組みを進めておるところでございます。

課題・問題点のところを書いておりますし、図面の方にもつけておりますが、先ほど申し上げました鳥取自動車道の4車線化ということで、それぞれ4つの場所を一応4車線化に向けて整備を進めるということで計画しておられるということでございます。

あと次のページ以降にそれぞれの道路の関係の道路網の整備の状況をつけておるところでございます。一番最初が鳥取県の高規格道路の幹線道路網ということでございますし、次、開いていただきますと先ほど申し上げました4車線化の部分、鳥取インターから鳥取南インターの間に1カ所、それから用瀬インターチェンジ - 智頭インターチェンジの間に1カ所、福原バスステーション前に1カ所、それから西粟倉 - 大原間に1カ所ということで4車線化を進めるということでございます。

以降それぞれの路線の整備状況をつけておりますので、これは参考にござんいただきたいと思っております。

高速道路を生かしたまちづくりということで、勉強会を立ち上げてこれからの方向を出していくということに取り組んでおります。以上で説明の方を終わらせていただきます。

**清水会長** ありがとうございます。

やはりこの高速道路ができますといろいろといい影響が出てくるし、そのかわりいろんな課題とか問題点も出てくるということで、これに関連するような市の方の取り組みとして2番目の鳥取砂丘、砂の美術館を活かした観光の取り組みということで、資料2の説明をひとつよろしくをお願いします。

**大田経済観光部長** 経済観光部長の大田でございます。私の方から今、鳥取市が一番力を入れております鳥取砂丘、砂の美術館を活かした観光の取り組みということで御説明させていただきます。

砂の美術館は、平成18年度に第1期展示となりまして、今現在は6期目となります。昨年度、平成23年には世界初となる全天候型の砂像の今の展示施設を整備しました。昨年度第5期展示では、砂の世界旅行・イギリスということをテーマに52万6,768人來られているところでございます。合計でも150万人を超えております。このたびの6期展示、砂で世界旅行・東南アジア編でも昨日まで27万6,800人の方がお見えになっておりまして、今年度の目標は55万人ということの達成に向けいろいろイベントの開催とかプロモーション活動を実施しているところでございます。

また、これから整備を行いますが、駐車場が不足しておりますので、来年度初めにオープンするよう230台の駐車場をつくることとしております。

冊子を配らせていただいておりますが、ちょっと振り返っていただきまして、8ページから第1期展示から入館者、それから経済効果等を上げさせていただいております。8ページは、1期目はイタリアのルネッサンスということで、この期間は短かったのですが、

11万人で5億円の経済効果。9ページの2期目ではアジア編ということで、55億円、これも4月から1月までということで行っております。3期目は、世界砂像博がありましたので、秋からということでしたが、36億円で17万人の方に来ていただいたと。4期目はアフリカということで、41万人の方が来ていただいて、73億円の経済効果ということがございます。昨年度は、6ページですが、イギリスということがテーマでございました。4月から1月まで行って、経済効果は記入していませんが、116億5,000万円と大きな経済効果を生んでいるところでございます。来年度はロシアということテーマに新たに取り組むこととしております。

砂丘全体の観光の中で見ましても平成16年が224万人でございましたが、平成23年度が260万人、昨年度は317万人と、自動車道の効果も当然ございますし、この砂美の効果は非常に影響があるということとなっております。昨年度は特に中・西部は観光客が減る中で東部はどんどん上がってきたということで、やっぱり砂の美術館の効果、自動車道の効果は大きいものと考えております。

今後の展開としましては、やはり砂の砂像の文化を広げていくということと、情報発信に力入れていきたいと思っておりますし、山陰海岸ジオパークも来年また世界ジオパークネットワーク再認定という取り組みがございますので、これと連動しながら砂丘、世界ジオパーク、砂の美術館、これを力を入れていきたいし、町中観光なり新市域との要するに滞在型、通年型の観光にいかにかっていくかというのが大きな課題かなと考えております。以上でございます。

**清水会長** ありがとうございます。

それでは、だんだん日にちが近づいてきております全国都市緑化フェアの取り組みについて、資料3で説明をひとつよろしく願います。

**三谷都市緑化推進室長** 都市緑化推進室、三谷でございます。資料3をごらんいただきたいと思えます。先ほど御紹介ございましたけれども、9月21日から11月10日ということで51日間にかけて鳥取市の湖山池公園の東側のお花畑ゾーンを主会場に全国都市緑化とっとりフェアを開催するということで現在準備を進めております。

目標の来場者数、主会場で30万人ということで掲げておまして、8月1日現在の前売り券の販売状況ですけれども、5万8,000枚余りということですが、直近では今約6万4,000のところまで上がってきております。

運営に携わっていただきますボランティアにつきましては、400名の募集に対しまし

て564名の応募があったということで、こちらの方は大変関心を持っていただいているというところでございます。

そのほか県外の来場者目標9万人ということで、主会場30万人に対して3割ということにしておりまして、これにつきましては県、市の事業と連携しながら首都圏でありますとか近畿圏等でのPR活動を実施しておりますところでございます。

今後の方針ですが、目標来場者数の達成のために引き続き広報活動を取り組んでいくことを考えておりますし、県外からの誘客ということで旅行企画の補助事業でありますとかバスの補助事業等を制度化しまして観客の誘致を図るということで準備しております。

あと市内、県内の誘致につきましては、市内では市報の9月号配布にあわせまして第3号チラシということで、資料をつけておりますけれども、会場の内容がわかるようなものを準備いたしまして、これを配布するというところで、そのほか県内につきましては関係するような各所にこういったチラシ、ポスターを配付、掲示をしていくことしております。そのほか9月18日の日本海新聞への特集記事ということで、概要がわかるような特集を組んでいこうとしております。

課題・問題というところですが、何と言いましても前売り券の目標12万枚に対しましてまだ5割というところでございます、機運の醸成でありますとか県内外の誘致というものが課題だというところでございます。

今添付しておりますチラシにつきましては、はぐっていただきますと中に会場のレイアウトでありますとかこんなもの取り組みますよということでいろいろわかりやすいもの準備しておりますし、あと催事ありますとか飲食、物販につきましても速報版ということで準備しております、こういったものも活用しながらPR活動に努めていきたいと考えております。以上でございます。

**清水会長** ありがとうございます。

それでは、今度は鳥取の食による地域活性化の取り組みについてということで、先鳥の食卓と書いてあるのですが、資料4と5で説明の方ひとつよろしくをお願いします。

**司会** それでは、企画推進部でございます。私の方からはただいま会長さんから御紹介ありました先鳥の食卓、エンジン02鳥取・食のまつり2013、資料4で説明をさせていただきます。

御案内のとおり、8月24、25、今週の土、日の2日間でございます。バード・ハットを初めといたしまして中心市街地各所でこのイベントを開催いたします。

昨年3月には、エンジン01文化戦略会議鳥取ということで、150名の講師の方をお迎えして、2万人の人が鳥取のいろんなところで集っていただきまして、さまざまな講座であるとか、あるいは夜楽であるとか、いろいろ楽しんでいただいておりますが、その後を受けてといいますか、今回エンジン02という形で、今度は食をテーマに開催する運びとなったものであります。今回講師の数は少ないのですが、いろいろとテーマを設けて、特に食ということですので、いろいろ講座につきましても、また夜楽につきましても文化というよりも食のテーマということでそれに絞ってやるようになっております。

本日配付しております資料で、見開きのエンジン02先鳥の食卓ということで資料配付させていただいておりますが、めくっていただきますと今回の講師の方が右のページに出しております。それから左側には講座が土曜日、A教室からG教室までということでそれぞれ行われますし、夜は夜楽ということで6つの会場でそれぞれ講師の方をお迎えしての語らいの場を計画しております。また、日曜日にはメインのフォーラムということで、バード・ハットを会場といたしましてメインフォーラムを行い、また同時にバード・ハット、駅前サンロードでは屋台村も開催されるということでございます。

チケットの販売状況でございますけれども、一応昼間の講座の方は大体8割方売れておりますけれども、まだもう少し余部がございますので、ぜひお声かけいただきまして、たくさんの方に来ていただければと思います。また、夜楽の方につきましても完売のお店が一つ、花のれんさんが完売ですが、それ以外のところはまだ少し余裕があるようでございますので、こちらの方もよろしく願いたいと思います。

今回このイベントの運営につきましては、鳥取市の5つの青年経済団体の御協力で行っております。鳥取商工会議所青年部、鳥取青年会議所、また鳥取県東部中小企業青年中央会、鳥取法人会青年部会、それから鳥取県東部商工会青年部連絡協議会、以上のこの5つの青年経済団体、この方々が中心になって大会運営を行っていただいております。大変感謝申し上げます。

また、今回のイベントは、日本青年会議所の中国地区の鳥取ブロック大会及び日本テレビの24時間テレビ「愛は地球を救う」と連携して事業実施をしまして、県内外に鳥取の食をPRしていくという仕掛けとなっております。私の方からは以上です。

**清水会長** ありがとうございます。

それでは続きまして、今、鳥取市の方としては結構いろいろな企業誘致をしていただいております。ハードな部分からソフトの部分まで企業誘致の促進の取り組みについて、資

料6番で説明をいただきたいと思います。

**山根農林水産部長** 済みません。

**清水会長** そうか。もう一つ……。どうも失礼しました。では、続いてお願いします。農林水産部からよろしくをお願いします。

**山根農林水産部長** 農林水産部長の山根でございます。よろしくをお願いします。

資料5をごらんいただきたいと思います。テーマが大きなテーマを書いておりますが、中身はプチ・マルシェという事業について御紹介させていただきたいと思っております。

資料としてカラー刷りの資料、A4の横の分と縦の分がございます。イメージ的によくわかると思いますが、これを見ていただきながら御説明をお聞きいただきたいと思います。

私どもの方では、昨年の10月から東部広域行政管理組合と連携いたしましてプチ・マルシェ事業というのを進めております。このプチ・マルシェといいますのは、小さな市場という意味でございます。

本市の農業者が生産します野菜の中でJAとの規格が合わないとか、それからロットが少なくて質はいいけれども、出荷がなかなかできない、そういうようなものを関西地方の店舗を中心にいたしまして1箱3,000円分の箱を詰めまして、これを発送いたしまして、19店舗でございますが、そちらの店舗の方で販売していただくことで農業者の所得向上につなげようというものでございます。

また、あわせて大阪朝日ビルディングフェスティバルプラザというところでグリーンマーケットというものも開催させていただいております、ここでもマルシェ形式で販売しております。

この事業のメリットでございますけれども、農業者と販売店を直接つなげるということで流通コストが抑えられ、そして消費者の声がダイレクトに生産者に届くというところでございます。何はともあれまだまだこのプチ・マルシェは19店舗で19戸の農家でございますけれども、まだまだ22万6,000円ほどの売り上げでございますし、グリーンマーケットの方は63万ということで少ない販売状況でございます。その中でやはり鳥取の農産物はおいしいものがあるということに関西方面の方に知っていただくという取り組みで第一歩を進めているところでございます。

今後の方針でございますが、現在東部広域行政管理組合に関係します鳥取いなば協力店を中心に事業のPRを行っているのですが、大阪市内のガソリンスタンドへのDMとか、そういう方法で取り組んでいこうかと思っておりますし、ガソリンスタンドだけではなく

てゴルフ場、コンビニ、パン屋、車のディーラー、こういうところにも働きかけていこうかと思っております。

また、プチ・マルシェは店舗向けでございますが、グリーンマーケットでやった際には個人向けのボックスを希望される方がございまして、2,000ボックスをつくって新しい販路となるようにしていきたいと思っております。

現在のところ課題・問題点でございますが、まだまだ店舗の数も参加農家も少ない段階でございますので、さらなる拡大を図るためにいろいろ対応していこうと思っております。

また、品目が少ないとかロットが少ない農家につきましては、恒常的な出品が困難でございますので、それをまとめる生産者集団を組織していかないといけないと思っております。

また、生産者は物は提供できますが、その店舗に行くということがなかなか難しいものでございまして、何とかそういう機会をつくり上げていきたいと思っております。

また、関西方面等に持って行って打って出る農業といいますか、こういうことばかりではなくて、鳥取市内にわったいな等がございます。今度は来てもらって知っていただくという取り組みを進めてまいりたいと思っておりますし、それから観光、水産物等々もあわせましてどんどんPRを図っていく必要があると考えているところでございます。以上でございます。

**清水会長** ありがとうございます。新しい企画で、新しいアイデアでいろいろやっていただいているのではないかなと思います。先ほどは失礼しました。

それでは次に、三洋電機の土地ほか企業誘致を今どんどんやっていただいております。企業誘致の取り組みについて、資料6番で説明をよろしく願います。

**大田経済観光部長** 企業誘致の促進の取り組みについてでございます。

まず企業誘致の状況でございますが、開いていただいて横の表ということで、この23年度、24年度の企業誘致の状況を一覧でしております。実際21、22年は三、四件ということでしたが、23年度は10件。（「ないです」と呼ぶ者あり）ないのですか。申しわけないです、一覧で。

23年度が10件ということで、雇用契約は297人の企業誘致ということで立地していただいております。昨年度は、平成24年度7件、これも995人と、順調に実績を伸ばして、採用もしていただいておりますし、ここ2年間だけでも1,292人の雇用創出

が計画されているという状況でございます。特に昨年度はヤマト運輸さんが中国地方のコールセンターを鳥取市に統合されたということで、この雇用計画は250人ということになっておりますし、ジェーシービーさんが10年間で400人、これは若葉台の方に来ていただいたという大型の企業誘致も成功しているところでございます。今年度のところは、5月9日にシティコンピュータ株式会社と進出協定を結んだところでございまして、60人の雇用を計画されるということでございます。やっぱり鳥取自動車道の開通や東北の地震もあったのですが、やはりリスク分散ということに各企業さんも焦点を合わされているということがありますので、この機会にどんどん企業立地、誘致をしていきたいと考えております。

その中で三洋電機さんの南吉方工場が24年4月に操業停止をされました。そこから三洋電機さんにぜひ鳥取市が企業誘致に使いたいということでいろいろ協議して、最終的に購入することとなりました。鳥取市としては、この用地は工業用地や高圧電力など産業基盤が整っているという利便性の高い土地である点、またこれを多くの雇用の創出することができる貴重な用地ということで考えております。この土地を商業系ということではなしに、製造業、また業務系の要するに雇用が多い企業を誘致していきたいということで、ここを購入してこれから来年度いっぱいではどうかここに企業立地、誘致していきたいと考えております。現在複数の企業に対してこの用地はどうかということで提案しておりまして、1社については前向きな意向を示されているということでございます。基本的には複数社、面積としては5.1ヘクタール、5万1,000平米になるのですが、複数社の企業に立地していただくという方向で考えております。

また、河原の方にも今河原インター山手工業団地を整備しているところでして、分譲面積が6.6ヘクタール、これは平成27年度に分譲開始を考えておりまして、順調に整備も進めているところでございます。やはり全国的、また県内でも有効求人倍率は非常に回復しているということはございますが、この東部につきましては6月でも有効求人倍率が0.62倍と非常にまだ経済雇用状況は深刻でございます。その中でこういう用地も持ちながら企業誘致を積極的にこれからも取り組んでいくこととしております。以上でございます。

**清水会長** ありがとうございます。

それでは、最後の定住促進の取り組みということで、資料7番でお願いしたいと思います。

司会 企画推進部でございます。資料7、移住定住促進の取り組みについて説明させていただきます。

資料の現状の一番上の行に書いておりますように、鳥取市におきましては平成18年9月に鳥取市定住促進・Uターン相談支援窓口を開設いたしまして、若者ですとか、あるいは団塊の世代を中心にUターン促進に積極的に取り組んでおるところでございます。本年7月末現在で482世帯1,064人の方が移住定住されております。

このたび、本の紹介をさせていただいておりますが、これはことしの2月号、昨年末に宝島社という会社が発行しております「いなか暮らしの本」という雑誌がございますけれども、その中で「日本 住みたい田舎 ベストランキング」の調査がございました。その総合ランキングで第2位に選ばれておるところでございます。ちなみに第1位の大分県の豊後高田市に次いで鳥取市は第2位ということで、大変我々の取り組みを評価いただいているというところがございます。

具体的な取り組みを1番から9番までさまざま書いております。専任相談員の配置でありますとか、希望者に対しての無料の職業紹介、また住宅の支援、5番目にはお試し定住体験、こういったことが非常に評価されておるところでございます。

今後の方針ですけれども、今後においても今、相談窓口でお聞きするいろんな御意見、これらを参考にして今後もこの移住定住の促進の取り組みを進めてまいりたいというところがございます。

今後の課題・問題であります。一番Uターンの課題・問題となっておりますのは、一番上の方に書いておりますように、就労の支援と住宅の支援、さらには子育ての支援、この3つが大きな課題でございます。先ほど企業誘致の紹介もありましたけれども、企業誘致などを進めまして雇用場がまだまだ足りませんので、雇用場を確保するといったこと、また住宅の支援ということで、空き家等もございますけれども、それ以外の新たにこちらにおうちを建ててもらって移住定住してもらおう場合への支援、こういったものもやっておりますので、こういったさまざまなニーズを的確にとらえまして効果的な戦略を打ち出していく必要があると、これが現在の課題、問題でございます。

もう1点補足いたしますと、先ほど宝島社の「いなか暮らしの本」というのを紹介申し上げましたけれども、最近この冊子の9月号が出ておりますけれども、その中で「田舎移住お助け団体44」という記事のタイトルで紹介してございますけれども、この田舎暮らしを支援する団体の総合ランキングが発表になっておりまして、その中の第4位に鳥取市

の鹿野のNPO法人、NPOいんしゅう鹿野まちづくり協議会、この団体が田舎暮らしの支援団体として非常にすぐれた取り組みを行っているということで紹介させていただきます。これもあわせて御報告させていただきます。私からは以上でございます。

**清水会長** ありがとうございます。

鳥取市の方から用意していただいた説明は、今7項目にわたって説明いただきました。

これから会員さん、委員さんの発表に移らせていただきます。

時間的にはこれから60分から70分ぐらいありそうですので、始めできたら三、四分か四、五分でやっていただいて、メインテーマ、まずこのうちのどのテーマでお話しただくかと。それでサブテーマがありましたら、サブテーマもやはり中に入れて説明いただいて、または一回りしてから次のサブテーマの方に移るということもありますので、それぞれの皆さんの方でやっていただいたらいいのではないかなという感じがします。

**委員** まず質問ですけれども、先ほどの御説明の中で4車線化と追い越し車線とが混同されているように私は聞きましたけれども、資料を読ませていただくと追い越し線を6つか8つかつくと。4車線化については、区域はわからないで全面的にそれを推進するというふうに判断したのですけれども、さっきの説明では追い越し路線がすべて4車線化のように受け取れたのですけれども、いかがでしょうか。私の聞き違いでしょうか。

**清水会長** ちょっとこれだけ初めに説明してください。

**国森都市企画課長** 失礼します。きょう資料1ということで図面をつけさせていただいております。資料の1、2と、それから全体の鳥取県の高速幹線道路網図。

その次に、要望という形で鳥取自動車道における付加追い越し車線の早期供用という資料を見ていただきたいと思います。左側の方に設置予定箇所ということで、一番上に鳥取インターチェンジから鳥取南インターチェンジ、ここの下を見ていただきますと1カ所ということで、これは上下線ともやりますということで、4車線化でございます。それからもう一つ下が同じく用瀬と智頭のインターチェンジの間、これも上下線ということで、これも4車線化。それから福原のバス停付近ということで、これは1車線しかございませんので、これを付加追い越し車線をつけるということでございます。一番下、西粟倉と大原インター、これは上下線ですので4車線化ということでございまして、1カ所は.....。

**委員** いや、わかります。それで今のところですが、その4カ所の上に追い越し車線の設置が公表されている区間のところがありますでしょう。課題・問題点の2ページ目の鳥取自動車道、それに今おっしゃっていた鳥取インターチェンジ、用瀬インターチェンジ、

福原、課題・問題点の中ほどにこの4カ所が書いてございますね。その4カ所の上に米印で追い越し車線の設置が公表されている区間と、こう書いてあるものですから、私は単純にこれは4車線化のことではなくて追い越し車線をここにつくるといふふうに判断したのですが、それは私の間違いでしょうかという質問なのですが。

**国森都市企画課長** 間違いでございませぬけれども、さっき御説明いたしましたとおり福原のBS付近が上り車線だけですので、これが付加追い越し車線の配置ということで、あとの分は4車線化ということで御理解していただいて、1車線だけが付加追い越し車線の設置ということで御理解していただければと思います。

**委員** そうしますとこの米印は、追い越し車線の設置が公表されているではなくて、4車線化実現に具体化されるるところというように判断すればいいわけですか。

**国森都市企画課長** そうですね。そういった御理解でよろしく申し上げます。

**委員** そのようですから、安心いたしました。

それで本題に戻りますが、お届けいただいた資料を読ませていただいたときに大タイトルの「高速道路ネットワーク」を活かした地域活性化についての関連タイトルが5項目ございまして、その後に市庁舎の整備に関する資料、これは提案説明を受けるだけでもう時間が全部済してしまうのではないかと感じていたのですが、非常に早く終わっていただいてありがとうございました。

ただ、その中で資料1の鳥取自動車道への取り組み、今後の方針というところで、皆さんお聞きのとおり中国道から入ってまいりますと突然2車線になって、高速道路といったら4車線だと思っている人が県外は多いものですから、前に若葉やもみじマークの特に軽自動車でも走っていたら追い越し車線もないので無理やりな運転、ストレス運転と、そういうふうに今申し上げましたように県外の客から聞いております。ですからぜひ今の追い越しというか、4車線化の早期実現に向けて御努力をいただきたいというのが一番最初に申し上げたかったことです。

ただ、同じ資料1の2枚目の課題・問題点の最終行に周遊ルート案内看板の充実というのが書いてございます。今、清水会長がおっしゃったように、私は以前の市政懇話会で高速道路部会に入っておりまして、在籍していたときにも提言いたしましたけれども、例えば大原近くには高速道路、宮本武蔵の何とかとか智頭の周辺では石谷邸、板井原、芦津峡谷、いいでしょう。それから杉神社にはすぐそばを通っておりますし、それから用瀬あたりでは流しびなとか赤波の溪谷ですか、それから河原で八上姫神社とかハングライダー

のメッカ、霊石山など要するに今具体的に申し上げましたが、このような案内表示板を道路につけておくと帰りにでも寄ってみようかなというところでにぎわいがそれぞれ起こるのではないかと申し上げたことがあります。ところでそんなに多くありませんが、日本じゅういろんな高速道路を走ってみてもせいぜい市町村名とか食堂休憩のサービスエリアとか、あとは高速関係の速度表示だけで余分な表示を一切見ないような気がいたします。だから今申し上げたような観光安定的な提案も法律の関係で無理なのではないかなと思ったっておりますけれども、何とか鳥取道路だけは今申し上げたような提案を実現に向けて御努力願いたいと再度申し上げたいと思います。高速道路関係は、会長、この程度で終わらせていただきます。

**清水会長** ありがとうございます。

高速道路についてもうちちょっとしゃべってみたいと言われる方もありましたら。

**委員** 観光案内の案内板ですが、この件自体は今実は智頭の方で智頭宿という観光案内板が出ています、高速道路。全国で今1カ所だけなのです。全国の高速道路は、そういう観光的な案内板をしてはいけないということはないのでしょうかけれども、実際のところ私も全国ずっと走っていますが、高速道路に一切案内看板は出ていません。それで今試しということで智頭町だけが国交省と交渉いたしまして、智頭宿とこげ茶色に白抜きの字で書いてありますが、海外では全部あの色になっていますけれども、国内で初めてあそこがそういう形になっていますので、要望を上げていけば鳥取道に関して言えば今ちょっと試験的にやっていますけれども、できると思います。あとはこれは行政さんの方から国交省の方に交渉していただいてそういう方向性で取り組んでいただければなと考えておりますが。

**委員** ありがとうございます。

**委員** よろしいですか。

**清水会長** どうぞ。

**委員** 全然別のことですが、いいですか。

**清水会長** はい。

**委員** では、2点お願いしたいと思います。

山陰自動車道の西側に行くいわゆるインターチェンジあるいはジャンクションという説明は度々聞くのですけれども、鳥取宮津の道路とこの山陰自動車道あるいは鳥取道との連結の話は一向に出てこないのですけれども、この連結は鳥取市の周辺ではないのですか

ということが1点と、それとゴールデンウイークとこのお盆には、先ほどもちらっと塚田さんが言われましたが、道路の案内板が至るところに出ているのですけれども、あれは総合的に高速道路からおりてきてどういうふうに行くのが一番スムーズで砂丘を観光できるかということが目的でしょうか、それともその反対で砂丘が混雑するから早く逃がすための看板でしょうか、あの看板はどれが目的なのか。

そしてあの看板はどこの機関がだれに相談してやっていることなのかということも思います。我々地元の間は、何でこんなところにこういう看板が右だ、左だの指示が出ていなければいけないのかということが度々あるのですけれども、一つはっきりしていただきたいのは、あの道々に赤い字で書いてある鳥取道あるいは市街地なんなりという臨時に立つ看板はどこが、独断でやっているのですか、総合的に動線を検討した結果でやっているのですか、これを一つお聞きしたいと思いますし、他の日本の観光地を有している都市もゴールデンウイークと盆はああいう看板が至るところに立つのでしょうか。鳥取市だけなのでしょうか、あれは。この辺をひとつお聞きしたいなど。

そしてもしできればあの看板を設置する総合的な協議会があるのならいつどのようにその協議会はされてあの看板が突然と1週間前には至るところに立つのですけれども、その辺のいきさつをお願いしたいなど思っておりますが、ちょっと問題点がずれておるかもわかりませんが、お願いします。

**清水会長** では、2つの点について、結節点と案内板のことと、では、よろしく。

**国森都市企画課長** 結節点の話が出ましたので、東側で言いますと先ほど申し上げました鳥取豊岡宮津線、駈馳山バイパスまでが25年度に供用開始ということですし、西側を見ますと山陰道、これは鳥取インターから、仮称ですが、鳥取空港インターまでが25年に完成ということで、ちょうど真ん中がはいっているという御指摘でございました。先ほど高速道路ネットワークを生かした勉強会の立ち上げということを御説明させていただきました。経済でありますとか物流、観光、防災、医療、そういった観点からまちづくりをまず考えるということでございますし、その後段につきましては今ミッシングといいますが、空白になっている部分を高速道路でつなげるにはどういったことが必要かということを検討する会を立ち上げておりますので、それはある程度の方角が出ますと調査区間になるとかもう一つ次のステップに行けるということで今勉強会の立ち上げの方を進めているところでございます。

**宇山鳥取砂丘・ジオパーク推進課長** 道路の案内板についてでございますが、このゴ

ールデンウイーク等の道路案内板の設置でございますが、これにつきましてはやはり鳥取に入っただけで観光地であります鳥取砂丘とかにスムーズに車が流れるようにというところで設置しているものでございます。国道につきましては国交省と、県道については県の道路課というところでございます。

実際に設置に当たりますのは、渋滞対策の協議会というものがございまして、メンバーにつきましては、国土交通省、それと県の道路課、それと警察本部、それと鳥取市交通政策課、鳥取砂丘・ジオパーク推進課等も入りまして渋滞緩和のためにはどういう対策をしたらいいかというところでゴールデンウイーク前でありまして、あと夏の盆の前というところには協議会を設けてそれぞれの機関等で検討し、看板を設置したりとか、あとゴールデンウイーク等につきましてはサービスエリアなどでもチラシを配布したりとか鳥取市内の駐車場を案内するというところも行っているところでございます。やはりここ鳥取に入っただけでスムーズに車が流れるというところで対策協議会でいろいろ対応しているところでございます。

また、鳥取市よりほかの都市でそういう看板設置をされているかどうかというところでございますが、これにつきましてはそのあたりどういう対策がされているかというところをきちっと調べていないところでございますので、今後調べた後にまた報告はさせていただきたいと思いますが、そのあたりきちとした情報を持っておりませんので、申しわけございませんが、よろしくお願いいたします。

**清水会長** いいですか。

**委員** ジオパークということが盛んに言われるのですが、1カ所もこちら方面ジオパークという看板は立たないのですよね。先ほど各首長さんもその中に入るといいますけれども、看板の中にこちらはジオパーク方面の道路だという看板はつくる気はないのですか。

**清水会長** どうぞ。

**宇山鳥取砂丘・ジオパーク推進課長** ジオパークの看板でございますが、ジオパークも鳥取市の白兔から京都の京丹後までありまして、その中で国道等にはやはりジオパークロードというところで、鳥取県市内も秋里の交差点の方から鳥取砂丘の方に向かっていきますと何カ所かジオパークというところの看板を国交省が道路のわきに設置されたりとか、それからずっと豊岡の方に向かっていきますと同じようにジオパークロードということで、そういう看板も設置はしてございます。あとはやはりジオサイトの表示がわかるようなも

のとか、ジオパークのここがサイトですというものもわかるものは必要になってこようかなと思いますが、エリア内についてはそういう標識の設置は何カ所かされているというのが今の実情でございます。

**清水会長** ということです。ありがとうございました。（「ちょっと道路関係で補足をしたいです」と呼ぶ者あり）

では、市長さん。

**竹内市長** まず、追い越し車線とか車線を4車線化すると、4車線化を全体としてしたいというのが構想ですが、追い越し車線、付加車線等の取り組みはトンネルを掘ったりしてする必要もあって四、五年かかるという感じで今言っているようですね、国土交通省の方は。四、五年のうちに逆に4カ所ぐらいは完成すると。早くできるものはもうちょっと早くすると言っています。ちょっと時間的なこと補足しておきたいと思いました。

それから勉強会を始めておりますので、いずれ福部インターから鳥取インターなりをつなぐということを方針としておりますので、その質問がありましたけれども、その点もつなぐ方針のもとでどういうふうにつないだら一番いいかと、どういう方式が可能かということも勉強してまちづくりとかいろんな観点から考えております。

標識については、何か不十分だとか不適切だというのがあったらまたお教えいただきたいと思っておりますので、今の説明は今の説明として、個別にまた御意見をお伺いできればありがたいと思います。

**清水会長** ありがとうございました。

今道路の方の関係が主になって出ておりますが、そろそろ道路ほかでもいいですし、何かありましたら。

**委員** 口切りをするほど話題が豊富ではないのですが、きょう私も午前中、コーラスをやっているのですが、緑化フェアの練習をしてきました。10月6日と12日と2回、お花畑公園というのですか、今工事をしておられるところのステージで歌うのですが、その練習できょう出てきてみんなやってきたのですが、この中の内容を見まして100円バスに宣伝があったり、チラシがあちこちにあたりするのですが、チケットが売れていないと。鳥取は、ずっと長い間かかわってききましたが、非常に広報活動が苦手なまちだなと私は思っています。何をやるにしてもいかにそれを市民または県内外に浸透させるか、宣伝するかというのがやはり非常に不得手、おとなしい、これは県民性なのでしょうか、不得手なところがあるのではないかなということは今までかかわってきた中で常々考

えています。この都市緑化フェアに関してもチケットの販売が云々ということもありますし、そのバスが走っているチラシがある。あっ、きれいだな。何があるのだろう。あっ、あそこであるのだと、そこでとまってしまうのですよね。では、その中身はどうなのだろうかという興味を持ってもらえない。では、行ってみようかというきっかけをつくる何物が、それがちょっと欠けているように思います。だから出演する人たちもその日に向けて一生懸命いろんな工夫をして頑張っって練習して、皆さんに聞いていただきたい、見ていただきたいという気持ちでやりますので、やはりこの宣伝をきちっと県内外、そして皆さんに来ていただけるようにしっかりしていただければありがたいなと思います。

それともう1点、また別の項目で、先ほどの5項目なのですが、プチ・マルシェというのは私は初めて今回耳にしまして、非常にいい取り組みを始められたなと思って本当に感心しました。各生産農家がもっともっとふえて、それがどんどん浸透して規模がだんだんだんだん大きくなっていけばそれはそれで皆さんの認知度が高まるし、ああ、いい、これはいろんな意味で鳥取の農産物の宣伝になるなということで、これは非常に感心したので、これからもいろいろ工夫して頑張っっていただけたらなと思います。以上です。

**清水会長** ありがとうございます。

それでは、今都市緑化とプチ・マルシェとか出たのですが、こういう方では。何かありましたら。

**委員** 私もアトピア協会にかかわっておりましたので、この近辺の農家の方たち、それから生産物などについてもかなり状況を把握しているつもりなのですが、本当に出荷するということは、生産するのも大変なのですが、出荷の方へ持っていくというのが大変な作業でして、最近殊に産直市があちこちにありまして、出していらっしゃる方々もかなり高齢になっておりますし、それから生産物についても比較的出荷が自由なのですよね。あれば出すし、なければやめるという状況ですので、自由に出入りができるというところがあって産直市というのは続いているのですが、こういうふうに契約栽培、契約出荷みたいなことになるとそんないいかげんな気持ちではできないというところがありますので、なかなか継続して出そうかという、そのために一生懸命いいものをつくろうという方が少ないのではないかなと思います。農業分野にも本当に生活をかけて、情熱をかけてつくろうという若い方たちがやっぱり出てくださるとというのが、一番そういう方たちを育成するというのが何を始めるにしても大事かなと思います。以上です。

**清水会長** それでは、農産物について詳しい、農産物についてこの辺で出していただ

いたらと。

**委員** 農業に限ったことではないのですが、ここに上がっておる5つのテーマも言いかえれば全部地域活性化という言葉に置きかえられると思うのですが、その背景に問題になっているのはやはり人口減であったり高齢化であったりということが大きな課題になっているわけです。それで先ほどから出ておる農産物の直売問題もそうなのですが、要は意識改革の問題、ここをとらえないとなかなか前に進まないということが一つあります。それから以前にもずっと高速道路開設に伴ういろんな議論をこの場でも行いましたが、そのときも出てきましたように何が一番の売り物になるのかという議論をしたときに最後に出てきた言葉が田舎ということでしたね。きょう定住促進の中でも田舎ということのを二、三回使われましたけれども、まさによさというのは田舎という抽象的でわかりにくい面がありますけれども、そここのところから掘り下げて考えてみる必要があるではないかなと。

ところで、そういう田舎の中に埋もれているいろんなよいものを引き出して発見したりPRしたりしているものの一つの例が直売だろうと思います。目に見えない形ですけども、そこに魅力をみんなが持ってくる、期待するのは直売所ならではものだと思います。ところが今、西山さんのお話にあったように、直売所は必ずしも順風満帆で進んでいるかといえば、そうではなくて、今大きく抱えているのは高齢化という問題です。それからもう一つには、子供が、あるいは若者が直売所に入出入りしてないではないかという。

では、高齢化が問題だと言うが、いつの時代でも高齢者はいるわけですから、大丈夫だとおっしゃる方もあります。しかし、実際にはあれだけの昔からある伝統的野菜だとか何種類のものをつくったりするノウハウはそうすぐすぐには身につかないのです。ここは非常に見落とされている面が多いと思っているのですが、例えば家庭菜園というのは家でだれかが担当するわけですが、大体家族の中でも1人担当したらあとは全部手を抜くのです、かかわらないのが普通です。お嫁さんとしゅうとさんがおられて、しゅうとさんが家庭菜園を担当されたらお嫁さんの出番がないのです。出番がないのが年をとってから、では出番が来るかといったら、次に新しいお嫁さんが来られたとしましょう。そうしますと全く技術を身につけていませんから、とてもおっくうだということで若いお嫁さんの方に譲ってしまわれるのです。つまり隔世型、世代が1回飛んでしまうのです。そういう家庭菜園の担当をずっと昔からひもといってみますと、1代飛んでずっと担当するくらい難しいのですよね。年をとってからこんなものをいきなり、あれはこうだ、ああだこうだと言われてもとても大変だから、面倒だから若嫁さんに譲ると。今は核家族になっておりますから、そ

れもなくなっていっているのですが、それぐらい難しいので、先ほどおっしゃったように直売の生産担当者の技術ノウハウを、いわゆる後継者をどのように育てていくかということが非常に大事な問題になってくるなとも思っております。さらに食育に戻ってくるのですが、やはり子供、若者、この方々がこうした直売を通じて意識を改革していくと、こういうことにいかに参加させるかという点も考え方に入れておかないと、要は人と人とのつながり、交流ということは共通、全部に田舎論に入ってきますので、そのことを考えると物流ばかりの論議でなくて、人と人との交流を軸に置いていただけたらなと思います。

これはちょっといじわるな質問になるかもしれませんが、経済効果のような格好で何十億という数字がずっと前段に説明がありましたが、これあたりも私の方からすると実感が全くつかめないのですよ。55億効果があったと言われても何の物差しでどういうものかね。我々もよく使うのですけれども、農地の多面的機能、農業の多面的機能ということを書いて全国で換算すれば8兆円だとか言うには言いますが、一つも言う者自身は実感なしに言っているのですよ。こういうもので何かを半分ごまかしたような格好でするよりも本当に効果が何億低いとか高いとか、それは何かということがわかるような資料や説明も必要ではないかなと思っております。以上です。

**清水会長** ありがとうございます。

今いろんなテーマで、きょうは5項目ありますので、その中で何かありましたらちょっと出していただいたらと。

**委員** 別に考えておるわけではありませんけれども、私はちょっとへき地に住んでおりますので、一番道路問題というのがどうしても頭にあります。きょうの場合は、基幹的な高速道路だとかなんだとかということなのですけれども、やはり道というものの重要性といいですか、いろいろ困ったことも経験させていただきましたし、そういうこともあるものですから、きょうの会はこれでいいと思いますけれども、やはり交通の便といいですか、そういうことに気持ちがありまして、やはり少子高齢化の問題がありまして、なかなかその地に住みにくくなってきつつあるなということを感じます。といいものは今バスのダイヤのことなどでそれなりのことをやっていただいております、それは大変ありがたいし、これからも続けていただきたいと思っております。どうも山間へき地にありますと色々な面で交通網がどうかということが生活する上でもとになってくるような気がしておりますので、それはそれとしてこれからも具体的なことを考えていく時期に来ておるのだと思っておりますけれども、そういうことを思っておるということだけ披露させてい

ただきたいと思います。

**清水会長** では、今川さんから発言を。

**委員** 私は企業誘致促進の取り組みについてということで、資料6ですが、このたび鳥取市が三洋電機の跡地を取得されまして、これも17億8,600万円という大きな金額でございますが、この金額とかなんとかでなくして、これが大体1年先か2年先か3年先になるかもわかりませんが、何社ぐらいここに誘致されるようなお気持ちがありますか、それとも一、二社で大きな企業を誘致される、そういう気持ちが何か市の方にあればお聞きしたいと思います。鳥取市の方は、西部とは違いまして非常に厳しい状況に置かれております。三洋電機、また日立さん、鳥取電機さんが事業閉鎖ということで、鳥取市を代表する企業が全部大きな人数、人員を雇用しておられた企業が撤退されて非常に厳しい状況にありますので、このたびこのように三洋の跡地を取得していただいたということは我々としては非常に喜んでおるところでございます。これを何とか早く企業、その企業もいいかげんな企業でなくしてすばらしい優良企業を誘致していただくようお願いしたいと思います。

それと、ここに単価3万5,000円ということが書いてありますが、その誘致された企業に譲る場合にこの3万5,000円ぐらいの単価で譲られるものか、それとも安くしてとにかく鳥取に来ていただくように、来やすいようにという、そういう気持ちでおられますか、そのこともお尋ねしたいと思います。何と言ってもこれからの若い者が鳥取市の企業に勤めていただいて移住していただいて人口もそう減らないようにということにもつながりますし、ぜひともこの三洋の跡地を成功といいますか、何とかいいぐあいに企業誘致をしていただければなとお祈りしたいと思います。よろしく申し上げます。

**清水会長** ありがとうございます。

これは市長さんの方でちょっと。

**竹内市長** これはちょっと振り返ると昨年の末ぐらいに、これは整地して売り出すという方向性も出てきたと。鳥取市としては、商業用のまた新しい郊外商業地に大型の店舗が来るようなことになって困るという声が聞こえてきたり、引き続き雇用の状況が改善するためにはやはり新しい企業誘致のための種地というか、用地が絶対必要だとか、そのころ工業団地も新津ノ井工業団地が大分売れてきたということもあって、河原工業団地もすぐにはできないということもあって、鳥取市として少し思い切ってこれを買い取り交渉に入ろうと考えまして、会長さんとも御相談して、商工会議所の会頭さんでいらっしやい

ましたので、それもよからうという御判断もお伺いした上で鳥取市としては交渉に入ったわけです、年明け早々に。適正な価格で大体取得できたと考えておりますので、これを今度は企業誘致に結びつけると、今、今川さんのおっしゃったようなことが大きな責任になって、責任というか、課題になってきております。

申しあげましたように、できるだけ5.1ヘクタールある土地なので、余り細分化しないで、かといって1社だとまたいろんな景気の影響を受けたりもして心配もあるということで、複数社に分割して企業誘致を図ろうという考え方です。それから今年度から来年度にかけて大体譲渡先のみめどをつけようということを考えていまして、これは経済のタイミングとかいろんな意味から今が勝負時だと売の方は考えていまして、そしてまた河原の工業団地ができるのが27年度以降販売ということでもありますので、25年度と26年度に重点を置いて販売先を固めていこうと思っています。できれば地元の製造業などに波及効果のあるような物づくりの製造業がいいということは考えておりますが、ほかの選択肢としてはできるだけ雇用がふやせるような、業種的には業務関係の会社も考えられるということで、まずは製造業が第一と位置づけながらやっています。

地価については、平米単価3万5,000円というのは、いわゆる坪でいうと11万円ちょっとになります。実は新津ノ井工業団地は平成14年から売り出して、私が市長になってからまだ全然売れていなかったのですが、あそこはたしか3万6,000円ぐらい、12万円ぐらいで売ろうという計算でずっと売り出してありまして、大分買われてもおります。一部は貸して、後で買ってほしいということもやっています。しかし、大体そこもほとんどが売却済みになりましたので、ここは大型の大きな敷地をまとめて買っただけという前提で3万5,000円より下げて条件をよくして誘致を図るといっても戦略的には考えています。相手を見ながらということですが、例えば1ヘクタールを超えて用地を取得して、かなりの雇用も生み出せるというところであれば望ましいのは2ヘクタール、3ヘクタールというぐらいの大きいのが一番いいのですが、1ヘクタールを超えるような企業の進出であれば地価も下げたりして、これは鳥取市が自分がずっと土地開発基金でためていたお金を、ずっと長く塩漬け的になっていたお金を今回土地にかえたということで、また土地が売れば鳥取市の収入に戻ってきますので、そういう形でやりとりしながら、今度は売却の手だてを講じつつあります。ちょっと長い説明になりましたが、大体今川さんがお考えになっておられるようなことを実現しようとしていると申し上げてよろしいかと思えます。

それからもう少しお話があった点に触れてもいいですか。

**清水会長** どうぞ。

**竹内市長** 委員さんからは山間へき地では道路整備が重要だと。生活していく上で道路が必要だということも十分私は承知しておりまして、整備を計画的に進めておりますが、県が担当する部分があったり、市が担当する分があったりしますが、道路ができてくると例えば佐治の例でもこれは比較的入り口に近い、谷も奥の方ではありませんが、選果場に直接梨を買いに来てくださったり、これからシーズンなりますが、そういう魅力的なものがあればやってきてくれるのですね。今度梨シャーベットをつくる事業所も新たにこれまで学校給食を担当していた施設を整備されて事業を始められましたが、こういうところも道はそう悪くもないわけですしけれども、いずれにしてもどこに立地していてもかなり魅力あるものがあればやってくるという、そういうことがあるわけですし、日ごろの生活に十分に道路が安全で確保されるということ、道路交通が確保されるということと、あとは魅力あるものがあれば人はやってくと、そういうことを最近八頭町の大江ノ郷に行ってみるとかなり込み合っていますよね。ああいうところを見てもわかりますね。魅力あるものをつくって人を呼ぶことができる。道がかなり遠くて細い道であったとしても人は出かけてくるとか、そういうことをやはり痛感しています。田舎を売るには人と人とのつながりが大事という、とても奥行き深い川上さんのお話をしっかりとお聞きしました。これまでもプチ・マルシェも先ほど話題で取り上げていただきましたが、田舎を売る取り組みをある意味では、田舎を売るというのは悪い意味ではないのですが、我々の持っている特徴もあり、都会に対して地方の魅力を売り込んでいくというときにそれを支える技術の伝承だとか人と人がつながって物がちゃんとできていくということをお忘れしてしまって、上辺だけで直売所を設けたからそれで物が売れるというものではないというお話は大変重要だと思います。農林部長も一緒に聞いていましたから、しっかりとまた生産から販売に至る人と人とのネットワークとかそういうようなことで、何か目が開かせられた思いがいたしております。

それから都市緑化フェアについてもしっかりとPRしていきますので、今からでは遅いと言われるかもしれませんが、これは相当やってもいるのですが、どうしても上滑りに聞こえるかもしれません。でも多くの方がこれにかかわっていただいているので、町内会とか自治会なども含めて。これは恐らくかなりの人が来てもらえる取り組みになると思います。これは30回ずっと続いている全国的なイベントなので、全国的なPRも一方でできてき

ておると思います。むしろ地元でよくわかっていただくためのきめ細かい説明の機会などをもうちょっと充実させたいと思いますが、担当の部長さんから何かあるかもしれませんが、今やっていることとか、ちょっと補足させてください。

**清水会長** では、どうぞ。

**大島都市整備部長** イベントへの御参加をありがとうございます。今参加いただいているイベント、やはり緑化フェアの会場、我々全力でいい庭園、花と緑の博覧会をつくっているつもりでございますけれども、やはり緑だけということではなく、ほかの鳥取の魅力を総動員して御参加いただくイベントですとか鳥取市内全域の食に関するチラシ、あるいは会場で鳥取県内から集まっていただく食事ですとかお土産、そういったもの、まだ一部未定のものがございますので、速報という形ではございますけれども、そういった周辺の歴史も含めた鳥取市の歴史、文化といったものも総動員して鳥取に来て楽しんでいただく、もちろん砂の美術館との連携はそもそも共通のチケットで今、広島や四国の方から砂の美術館や湖山池を両方訪ねるバスツアー等も立ち上げていただいているところでございます。そういったことで今回の緑化フェアだけでなく、鳥取の魅力を知って帰っていただければ再訪していただくといった形で精いっぱい努力してまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。以上です。

**委員** 時期的に少し早目早目に。

**大島都市整備部長** もちろんです。

**委員** 21日からでも、本当あと1カ月ですから、その辺がちょっと気になりますので。

**竹内市長** 最後になって馬力を出すという。

**委員** いつも大体そうですね。いつも大体そのやり方だと思いますが、早目早目に動いていただければと思います。

**清水会長** では、最後の追い込みになるかもわかりませんが、頑張ってくださいたい。では、別の方からも意見を出していただいて。

**委員** 皆さんいろいろと実体験をしておられるのですが、私も新市の方ですので、へき地ではありませんけれども、佐治のように、一応新市でございます。それで鳥取砂丘の砂の美術館を生かした取り組みの中で砂丘のラッキョウですが、よくあそこに6月ごろラッキョウ掘りに行かせていただくのですが、そのときに結構県外車が来るのです。それでラッキョウを掘らせていただいけませんかという感じで来られるのですよね。農家の方は一

見の客はお断りしておられるみたいですが、JAさんの一坪農家というのもあって、そういうイベントもあるのですが、そういう観光客のためのラッキョウ掘り、結構ラッキョウ掘りは楽なのです。芋掘りやジャガイモ掘りと違ってとっても楽です。そういうイベントもあわせて体験をされたらもっと結びつく、砂丘ラッキョウ、ラッキョウと言って売らなくても結びつくところがあるのではないだろうかという気がしております。四季折々海も近いですし、季節的に春にラッキョウをとれば、夏は海が近いですので、海の幸、それから秋、冬にかけてはばばちゃんなべやかニ、こういうものと一緒にコラボされた観光を取り組みされたらいいのではないかという気がしております。かなり県外から自動車が来るのではないかなという予想をしていますので、その辺もちょっと取り組みとして考えられたらどうなのかなと思っています。

それからもう一つ、緑化フェアの取り組みですが、これは陸上輸送だけではなくて、なぜせつかく湖山池があるのに湖山池で船を浮かばせて、例えば金沢の方からでも船で逆に池の方から見る、そういう緑化フェアもあってもいいのではないかなと。県内というか、鳥取市の方たちはもう地理的にわかっていますので、自動車で来ることだけでは魅力がないと思います。やっぱり船を浮かばせて湖山長者の民話や歴史も学んで帰ってもらうと言われましたが、もう遅いかもわかりませんが、そういう取り組みもされたら案外と反対側の池の方から見るというのも、また趣が変わっていいのではないかなという気がしております。

それから定住促進の取り組みですが、なかなか定住促進も本当に空き家対策というか、空き家もたくさんありまして、どんどんふえるばかりです。ところが荷物があって、空き家もあけられないのです、実際のところ。すなわち高齢化の中でどんどん自治会の方も本当に独居だったり、それから親子で住んでおられたりとか、そうやってきますとどうしても施設とかそういうところに行かれて、本当に空き家になるのです。どんどん自治会も減ってくるような状況の中で、やはりその辺も含めて地域活性化というのは本当に地域の問題として取り組んでいかないとだんだん閉鎖的になってくるのだなという思いがします。活性化には若者とよそ者とばか者がいるということよく聞きますけれども、なかなかこれが難しく、若者という取り組みの中では今、一たん外に出ておられた若者が帰ってきていろんな町おこしをされているのですけれども、そういうものをやっぱり地域の住民が本当に支えていくという仕組みをもっともっとつくっていかないと結局就農とか農業の方です、ね、帰ってこられて農業、田舎暮らしがいいなと言われても結局は夫婦別れされたり、

そういう状態も本当に実際ありますので、もう少しその辺を何かいろんな形で相談に乗ってあげられたりいろいろされますが、そこら辺を本当に大事にしていっていただかないと、来てくださった方の受け入れはいいのですが、生活というものをやはり重要視していただかないとなかなか大変だろうなという気がしております。以上です。

**清水会長** ありがとうございます。

いろんなアイデアというか、とっぴな発想ですが、湖から眺めてみるというのもすごくいいなと思って。

この辺で一回りしていますが、いろいろな角度でひとつよろしくをお願いします。

**委員** 皆さんがおっしゃったので、特にありませんが、まず高速道路のところでは私も感じましたが、町村ごとにいろんな観光パンフレットがつくってあるのですが、多くが白地図になっておりまして、中身がない。それだったら鳥取の全体でつくられたパンフレットがあるならそういうのを四季折々に変えてつくっていただくと大変重宝するのではないかなという思いがしました。引き続きそういう取り組みをやっていただきたい。

それからもう一つ、例のオアシスとっとり2013、私も大きなイベントをしましたが、鳥取では直前になるまで人気がないとか盛り上がらないとかさんざん言われました。そのときの経験ですが、ぜひとも準備状況を広報紙ではなくしてマスコミに、例えば神部さんがこういうセレモニーの練習をここでされますとか、そういう細かい情報をどんどん出してください。例えば茶園さんが砂像をあそこにつくるのはいつからで、こういうテーマの像になります。砂の美術館との関連はこうですとか、具体的に郷土芸能はこういうものですとか、だれが出ます、どこの小学校が出ますとか、その詳しいものがどんどん出てくると地元の方はそれにつられて前売り券を買われると思います。そういうきめの細かさがないと上辺すべりでいくとやはりなかなか盛り上がらないというのが私の経験でした。以上でございます。

**清水会長** ありがとうございます。

これで一回りしていただいたのですが、初めのころはテーマだけ、高速道路の関係をしゃべっていただいたのですが、そのほかにラッキョウ掘りについていろいろ詳しい方もおられるので、その辺の観光農業と、それから食の海産物もあると思いますので、お願いします。

**委員** ラッキョウの掘りというところで、掘っていただきたいという農家とあそこの農道に入ってきてもらっては困るという農家と千差万別です。もともとあのラッキョウの

農道は、そういうことを想定した道路ではないということが、我々の作業のための道路だという観念が強いのですよ。だから県外車や言ってみれば余分な車があそこにとまると作業がしにくいと批判的に見る農家が大半なのです。ラッキョウ掘りのツアーがあるのだったらそのツアーの人たちの車はここに置いてこちらで掘ってくださいというものをちゃんと設定しないとトラブルがどんどん変な方に広がってくる可能性があるのです。でも言われたように掘りたい、切りたい人がいっぱいいるのですよ。その辺のニーズをどのように取り込むかということも一つの大きな課題だろうと思います。それ以上深入りのことは、ラッキョウ生産者ではございませんので、言いませんけれども。

**清水会長** ありがとうございます。

そのほかもうちょっと一言どうぞ。

**委員** 最終ページの市庁舎整備の問題にちょっと触れたいと思いますけれども、実は私、資料8の中の説明意見交換会の7月13日土曜日9時半から河原の中央公民館に参加いたしました。残念ながら次の予定がありまして、意見交換に入ってすぐ退席しましたので、お力になるような発言ができなくて大変申しわけなかったのですが、当局の懇切丁寧な説明にもかかわらず、私の聞いた二、三の発言は、要するにピント外れなものを射ない発言とか、あるいは最初から新築移転反対ありきという発言、そういうことで不毛な発言が多かったように私が退席するまでの発言は思いました。新築移転の防災と市民サービスの充実強化、交通アクセス、敷地が広くて駐車場の問題も解決とか、合併特例債で資金調達も問題ないとか、よく理解されてないままの不毛の論議であったような気がいたします、最初の議論が。どうか鳥取市百年大計のために市長さんも亀屋さんも勇気と真心を持って頑張ってくださいようにエールを送りたいと思います。よろしくお願いします。

**清水会長** ありがとうございます。

そういうことで資料8として添付してあります、そういうこともあるということは今言っ、そのほかもうちょっとつけ加えて説明したいことがありましたら出していただいで。

**委員** これはこの場で言うべきことかどうかちょっとわからないのですが、バード・ハットですが、雪のときはどうされるのですか。ちょうどかまぼこ形になっているので、雪が降ればどういうふうにな雪が落ちるのかなと。真ん中に全部落として、そこで雪祭りみたいなことをされるのかなとすごく気になりまして、雪が降ったときはどうされるのか、このバード・ハットの扱いは。短い距離ですが、どうなのだろうか。道路ですよ、一応

は。でもどのようにされて、設計的なものもあるのですが、でも鳥取は雪が降りますので、ことしこそ降りませんでした、どうなのだろうなというのがずっと気になっていまして、その辺を教えていただけましたらありがたいのですが。

**清水会長** では、雪対策をどうされる。では、どうぞ。

**大島都市整備部長** 基本的にはバード・ハットは鳥取の積雪をそのまま上に解けるまで乗せておけるような構造になっておりますので、基本的には乗せたままと。大分解けてきましたら散水などでちょっと早目に解かして、横にそのまま落下しないようにキャットウォークみたいなものがついていますので、そこに解かして落としていくということも考えられますけれども、基本的には乗せたまま暖かくなって解けるということを想定して設計してございます。以上です。

**清水会長** いいですか。

どうぞ。

**委員** 緑化フェアの会場は、期間が過ぎましたら市民の公園とかということで整備されるのでしょうかということと、もう一つは、新しい市役所を建てる方に私は賛成なのですが、これから将来人口減になりますし、議員さんも少し減らしていこうという状況になっておりますので、やたら大きな建物というのはどうかなと思いますので、将来展望に似合ったような建築物にしていだけたらなと思います。

**清水会長** ありがとうございます。

それでは、時間が予定の時間になりますので、そのほか何か追加で発言されたいことがありましたら。

その後、市長さんの方からまとめの話をさせていただきます。

**委員** いいことばかり市長さんの耳に入っておるということになっていけませんので、市庁舎の問題で一つだけ、以前出てきた話なのですが、耳に入れておきたいと思えます。その後の今の市でとっておられる対応で異論はありませんし、そう問題のことは耳にしません、この場でも出ておりましたように、投票でされた議会の対応のところの問題がやはりまだすっきりしていないというところが今後にもいつかどこかで小さい火が吹くかもしれませんという心配をするのです。今、終戦記念日のたびに反省とか謝罪ということが一言でもずっと議論が続けられておるように、やはりやったことに対してどういう整理の始末をしたかというところはきちんと説明責任が何かなければならぬと思うのです。公費を使った形で、しかも多くの方を煩わしてやったことについて、あれは前提条件

がなかったとかこうだとか、それは理解できてもやったことに対するの整理がきちんとされた上で次の段階に入っているならいいですけども、そこがまだ十分謝罪もなし、説明もなしという面が非常に薄いのではないかなと。ですから私は、説明会があったり、意見の、あるいは改めてアンケートをとったらこうだったというのは正当論としていいと思うのですが、だから以前のことはもうなしですよということにはならないと思うのです。そのところだけはどこがどういう責任でどういう形になるのか問題を大きくするのではなくて、やはり区切りとして、節目としてきちっと整理されるという努力は見せておく必要があるかなということだけをお願いしておきたいと思います。

**清水会長** ありがとうございます。

そのほかの方はいいでしょうか。

それでは、時間になりましたので、まとめと、それから今お尋ねになったことについての市長さんの方からコメントをひとつよろしくお願いします。

**竹内市長** 幾つか大変有益なお話、問題提起をいただきました。住民投票をどう考えていくのかという、先ほど委員さんのどう考えていくかというよりこれをきちんと総括をして反省なりなんなり責任をどう考えるのか、これは多くの市民の皆さんからも指摘を受けていて、私としてもいろんな意味で考えをもっと深めなければいけないと思っておる点です。今は住民投票について金額74億8,000万というのと20億8,000万というのが表に出てきて、それが金額の差異というのも大きな住民投票を左右するものであったということなども我々も考えたりしたりしておりますし、20億8,000万でできないという議論も、これは議会自身として取りまとめて、5月に住民投票があって、12月にそれを発表されたということでありまして。市民の皆さんから見ると、おおよそ6,000万ぐらいのお金をかけ市民に足を運んでいただいて投票して、それで決まらなかったとすればはっきりしたけじめが必要だという議論は随分ことしの初めごろ、あるいは昨年の後半から私も何回もお聞きしております。

私自身も執行部的に見てもあれはもう御存じのように議会自身が案をつくって議会が議決して、執行するのは執行部という実施部隊というか、実施機関がやりなさいよと言われてやったという感じで物事は進んだのですが、そうは言いながらそのときに例えば自治連合会の方はもっと内容が詳しくわかる説明がないといけないといった指摘もあったし、そういう経過を考える、あるいは情報が十分でないという御指摘、いろいろその時点でもあったのですが、執行部的にそういった点について例えばでは、今ある耐震改修で20億8,

000万でどんなものができるのかと、機能の問題というのがほとんど説明ないまま耐震改修で20億8,000万でやるという案と、もう一つの新築移転統合する案と2つが並べられたままで、市民の皆さんから見れば判断する材料が十分でなかった、あるいは極端に言えば内容的に適切でないものまであったといった点がありますが、これはただ単に議会の責任と言って済むものではなくて、やっぱり執行部としても情報提供が不十分な状態で住民投票が行われて結果が出たということで、我々自身も本当にこういった住民投票についての問題点なり反省というものは今の時点では内心持っているわけです。こういったことも総括をした上で、最終的に住民投票の位置づけを出していかなければならないのではないかなと思っております。ですから議会の責任の部分は、なかなか我々としてそれを執行部が取りまとめてこうであるというまとめがたい部分がありますが、執行部、市長部局についてもやはり結局そういう結果を招いたのはどういう問題点があったのか、我々として反省すべき点はないのかというのは十分、そういった点の御指摘だったと思いますが、我々も思いをいたしているところであります。結局新たな鳥取市としての全体構想を取りまとめようとする住民投票をどう位置づけ、どう扱うかというのがかなりの特に市民の皆さんから及び従来2号案で住民投票で決まったではないかと主張される皆さんからの非常に関心事であり、指摘があるところですので、執行部としてもそれに適切にお答えした上で、その上でこうなのだというふうに言わないといけないと最終的には思っています。御指摘をきちっと生かしたいと思っています。

ただ、言葉でどう表現するかはなかなか難しいところもあって、今口頭で話していますからそれなりに表現できますが、微妙なニュアンスをいろいろとまたあげつらわれるようなこともあり得る部分だと思います。これこそ先ほどの勇気を持って心の内も語っていかないと理解してもらえないのではないかと思います。ありがとうございました。

それから水と緑のオアシスの跡地は、当然公園としてグレードアップした形で、一たんは閉鎖しますが、また再オープンして、多少取り払うものは取り払って生かしながら使っていこうという考え方です。

庁舎は、機能が充実強化して、費用は抑制する、すなわちぐっと圧縮するという考えですので、ぜいたくなものはできませんので、できるだけすなわち従来示した新築移転統合という考え方で出てきた数字を必ずや下回ったもので計画しなければならないだろうということは当然思っています、費用的な面では従来示したものを下回る形でどう整備するかということが問われてくると思っています。機能と費用と両面で合格点がいただけるよ

うな案をまとめるというのが私たちの責任だと思っています。いずれにしても鳥取市の将来を考えてしっかりとした内容で次の世代に負担を先送りしないと、これは非常に大事な点だと思っています。

いろいろ吉村さんから楽しい有意義な提案もいただいておりますので、Uターン、Iターンの話とか、都市緑化フェアで会場の利用、これはあんまりうまくいっていないのだな、輸送的な手段としては。

**大島都市整備部長** 船についてですが、フェアの直前まで準備をしております、また仮設でつくったものを来年の再オープンに向けてまた撤去したり駐車場をもとのグラウンドにしたりする工事が発生するものですから、実は働きかけはしたのですが、このフェアの51日間だけの運航というのが引き受けていただけませんで、ただ、今再オープンの後、もう一度青島の周遊の船をとというのはかなりいい感触をいただいている部分がございますので、再オープンにはぜひいいお知らせができるように調整してまいりたいと考えております。

**竹内市長** そういうことで、次のタイミングでは実現できるのではないかとということであります。

都市緑化フェアについては、準備状況を十分に情報発信しなさいという御提案もいただきました。十分そういうことをやっていきたいと思えますし、大体鳥取の人は前売り券を売っても早いうちにはなかなか買ってもらえないのはどのケースでも事実なので、これから1カ月でどれくらい関心を持っていただくか、そして前売り券につながらなくても当日に買ってもらえればいいわけなので、そういったことに努力をしたいと思っております。そういったことなどたくさんのお話を伺いました。

締めくくりのごあいさつをしていいでしょうか。

**清水会長** はい。お願いします。

**竹内市長** それでは、きょうの市政懇話会、多岐にわたる現在の取り組みを自動車道整備に関連づけながらまとめてお話をさせていただき、多くの意見をいただきました。鳥取市が夢を描いて取り組もうとしている活性化の部分というのはこの部分でして、雇用の問題、産業の問題、観光の問題、全部この鳥取自動車道など高速道路ネットワーク、これだけではありませんが、こういったものに象徴される基盤整備を進める中で多くの課題をこれに関連づけながら解決を図ろうとしておりますので、ぜひこうした構想でもって取り組みを展開しようとしていると、将来に対して道路ネットワークがさらに整備をされ、

我々の夢はさらに広がっていくということを市民の皆さんにもこれからも説明していきたいと思います。さらにこれから発展を続ける鳥取市を理解いただき、若い人にも定住していただくようなそういった場面、そして高齢者がこれから超高齢化社会でふえてきますけれども、鳥取のよさを感じていただきながら誇りを持ってやっぱり地域の中で活躍していただけるようなことになっていくことを期待しています。

我々は変化する世の中に生きておるわけで、その変化をどううまく我々の生活や将来の希望につなげていくかということをお鳥取市も大いにそれにしっかりと取り組むということをお、的確に取り組むことを続けていきたいとお思いますので、きょうはこうしたテーマをめぐってたくさんの有益な御意見をいただいたことに感謝しつつ、私の方の締めくくりとさせていただきますたいとお思います。

**清水会長** ありがとうございます。

それでは、委員の皆さん、きょうは本当にいろいろな御意見をいただきまして、ありがとうございました。

これで全体会の方は終了させていただきます。どうもありがとうございました。

では、事務局の方でお願いします。

**司会** 清水会長さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

また、委員の皆様には活発な御意見、本当にありがとうございました。

以上をもちまして平成25年度第1回の鳥取市政懇話会終了いたします。本当に本日はありがとうございました。

**岡部企画調整課長** 最後になりましたが、事務局よりもう1点だけ御報告、御提案させていただきますたいとお思います。

次回の会議は、11月を想定させていただきますたいとお思います。

テーマは、今回御意見をちょうだいできなかった次世代を担う若者の育成等ということで検討しております。

なお、現在の委員の皆様のお任期は11月21日までとなっておりますので、それまでにということで改めて御意見、御協議いただきたくてお思いますので、よろしくお願ひいたします。以上でございます。